

就学前教育とキッズプラザ大阪 「知・徳・体」をベースとした展示・プログラム

キッズプラザ大阪は、「遊びや体験を通して、“実際にやってみることで学ぶ”〈In Learning By Doing〉」の考え方にに基づき、子どもが創造性を培い、可能性や個性を伸ばさせることのできる展示やプログラムを、こどもの街を中心に7つのエリアで展開しています。幼児教育において重要な3要素「知・徳・体」(大阪市就学前教育カリキュラム)をバランスよく育むことができるように、子どもたちの興味や関心に合わせて自由に遊ぶことができる「総合的な学び」の場を提供しています。

デジタル 体感ひろばアクア

コンピュータやテクノロジーをテーマに、体を使った新感覚のデジタル体験ができるコーナーです。

創作工房

身の回りのあらゆるものが創作の素材となることを知り、五感を使って表現する楽しさが育ちます。

キッズラボ

身の回りの不思議をテーマに、幅広いワークショップや実験を体験できるコーナーです。

自然科学

科学、自然、体などのテーマ別に展開される遊びによって、子ども自身が、発見や発想に自分で気付くことを大切にしています。

こどもの街

全身を使って遊ぶことで、多様な動きが経験でき、バランス感覚を養い、体の動きを調整する力を培います。

オーストリアの芸術家
フンデルトヴァッサー
による自然との調和
をテーマとした作品

わいわいスタジオ

ニュース番組体験を通して、自分の言葉で表現する力を養います。身近な素材を使った音響効果体験もできます。



インタープリター

世代を超えた市民ボランティアが子どもの遊びを見守っています。インタープリターとの関わりを通して、子どもの発見や気づき、学びを生み出し、子どもの豊かな育ちを支えています。

文化・社会

日本をはじめ様々な国や地域の楽器や玩具などに触れながら、異なる文化をもつ人々を尊重する気持ちを育みます。

キッズストリート (乳幼児コーナー)

身近な生活を題材にしたごっこ遊びを通して、周囲の人とのコミュニケーションを楽しみながら社会体験を広げ、人と関わる力を育みます。

どれも
楽しそう！



キッズプラザ大阪と大阪教育大学の連携による

就学前教育プロジェクトについて

1997年に開設した日本で最初の本格的チルドレンズ・ミュージアムであるキッズプラザ大阪は、次世代の担い手である子どもたちの“生きる力”の育みを重視した展示物やワークショップを展開してきました。また、2022年に策定された大阪市教育振興基本計画では、“体験型幼児教育施設”として楽しい遊びや体験を通して創造性を培い、可能性や個性を伸ばする学びの機会を提供することが、キッズプラザ大阪の役割として求められています。

2022年2月、大阪教育大学と連携協定を締結し、教育等の分野における相互の充実・発展に寄与することを目的に“就学前教育プロジェクト”を始動しました。今般、大阪教育大学の専門的知見に基づく再評価とアドバイスを頂き、協力園による実践も掲載した「園外保育のヒント集」を発行しました。引き続き、プロジェクトを中心に、子どもたちの育ちに寄り添った施設として、さらなる充実に向けて取り組みを進めていきます。



国立大学法人
大阪教育大学



こどものための博物館
キッズプラザ大阪
(一財)大阪教育文化振興財団



140年を超える歴史と伝統を有する我が国有数の教育大学



日本ではじめての本格的なこどものための博物館

キッズプラザ大阪における園外保育の可能性

行事としての園外保育(遠足)とは、子どもが園内の保育環境とは異なる環境に身を置きながら、園内では味わえない経験を補うために実施される保育活動です。園外に出ることで、子どもが身近な社会の場や状況に応じた行動やルールがあることに気づき、身に付けていくことも一つのねらいです。そして、園外保育の最大の魅力は、友達や保育者と一緒に目の前で「本物」に出会うことではないでしょうか。そもそも幼児期の子どもは、直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や考えたり試したりする力、表現する力などが育まれます。

キッズプラザ大阪は、日本で最初にオープンしたチルドレンズ・ミュージアムであり、「遊んで学べるこどものための博物館」です。科学や文化など「手で触れる」「音を聞く」「体で感じる」「自分たちでつくり出す」など、子どもが実際に触って試してみることができる参加体験型の博物館です。子どもの「不思議」「おもしろい」「やってみたい」を十二分に刺激し、園外保育後の園生活にも遊びの発展が期待できます。



大阪教育大学
総合教育系 初等教育部門
中橋 美穂 教授
Miho Nakahashi